

## 住家被害認定調査等へのデジタル技術導入に係る研究会(第2回)議事要旨

【開催日】 令和4年12月19日(月) ※オンライン開催

### 【議 題】

- (1) 被害認定調査業務に関する検討
- (2) 令和4年度 of 取組報告

### 【議事概要】

- (1) 被害認定調査業務に関する検討

#### ◆主な発言：

- 全体の事務フローとデジタル技術を活用した支援ツールの関係性について、昨年度の区市町村のアンケートで要望のあった「調査結果の集計・管理」を事務フローの中で具体的にどのように落とししていくか、区市町村から確認を取っておいたほうが良い。
- 令和元年台風19号の経験から、なるべく住民立合いのもと確認を行う必要があったと聞いている。実際の判定を現場で行うか庁舎に戻ってから行うかについては、一長一短がある。各自治体の人口の大小などによっても異なるだろう。東京都としてどの自治体でも使えるシステムを作るには、ある程度最大公約数を取って検討するしかない。
- 屋根の調査に際してのドローン活用は、ブルーシートに覆われ空撮しても判定できない。一軒一軒の調査に活用するというよりも、地域全体の概要把握に活用したり、全壊判定に活用して現場調査の数を減らすような方法が有用ではないか。
- 非木造の判定へのデジタル技術の活用については、現在行っている木造外壁の検証と同じような形で応用することは技術的にも結構難しさがあると思われる。木造の一次調査の効率を良くし、そこで得た余力を、二次調査や専門家の協力が必要な非木造の調査に充当するという考え方のほうが良い。
- この支援ツールによって住民への説明が不要となるわけではないが、おおよその精度が確認できれば一次調査に活用し、その後の復旧復興支援につなげるために災害対応全体を迅速化する、という考え方もあるのではないか。

- (2) 令和4年度 of 取組報告

#### ◆主な発言：

- 内閣府の運用指針と、AI判定の精度向上策として検証中の素材・被害・背景のラベル付けをした詳細な判定対応テーブルの整合性については、どのようにオーソライズしていくか改めて検討することが必要がある。